

# 運動会と子どもたちの生活



大久保 由紀子

山 元 真 琴

## ◎運動会のねらい

☆二年保育年長児―五才児

○運動会を通して、きまりを守り、団体行動がとれるようになるとともに、協力する楽しさがわかる。

○運動会を通して、運動をじゅうぶんにし、運動能力を促進する。

○運動会を通して、数量・形・順番・位置・速さなどに興味や関心をもつ。

☆二年保育年少児―四才児

○運動会に参加することにより、集団意識を高める。

○集団行動に慣れる。

○友だちといっしょに競技や遊戯をすることにより、みんな

でいっしょにすることの楽しさを味わう。

○競技のルールを知り、守る。

○力一杯、一生懸命やる。

○戸外でのびのび運動する。

○ふだんあまり使わない身体のいろいろな部分を動かす。

○行事に喜んで参加する。

## ◎創立四十周年記念行事としての運動会

例年私たちの幼稚園では、小学校と合同で運動会を行なっている。が、今年には学園の創立四十周年の記念行事としての運動会が計画された。場所は駒沢競技場。幼稚園から短大までの大集団である。幼稚園の出場種目は、年長は開会式・閉会式・リレー・鈴わり、年長・年少合同で「旗のダンス」と決まった。

☆二年保育年長組の場合

最初、幼稚園から短大までという大集団の中で、幼稚園が他の集団（小・中・高・短大）についていかれるか、また、競技場が広すぎてかえって動けなのではないかという不安があった。そこで、なるべく大きい集団に早く慣れさせたいと思い、小学校の毎朝やるラジオ体操を、当日のラジオ体操の練習も兼ねて一緒にしてみた。体形は二列縦並び。年少組の時、一度は運動会も経験し、遠足などで列をつかって歩く経験はしているが、まっすぐに並ぶという経験が少なかつたため、なかなか並べず、横から顔がでて、そのうしろが全部まがってしまうことが多かった。「前の汽車ときちんとつながっていないと海に落ちますよ。はずれて横から先生の顔が見える汽車は、前の汽車とよくつながって、見えないようにしましょう」と、まっすぐに並ぶように指導した。

「前ならえ」ということはも小学校の先生の号令でおぼえ、両手を前にだし間隔はとれますが、それ以上の間隔をとってならばことは無理でした。また、まっすぐならんだまま行進することとは、それ以上むずかしいことで、運動場、競技場という広い場所ですと幼稚園でできた行進も、方向感覚がなくなり動けなくなってしまう子どもが多いようでした。やはり幼児は、環

境、条件によって左右されることが多いということが、はっきりわかりました。

旗のダンスは、夏休み前に部屋で自由遊びの時、レコードをかけ「旗をもっておどるのよ」といいますと、旗を持ったつもりで体を動かしておりましたのをきっかけに、組で円をつくり練習した。この時期に幼稚園ごっこが盛んに行なわれていましたので、先生になる子どもが、歌の指導をした後など「旗のダンスをやりましょう」といって、レコードをかけて数人のグループで遊ぶ姿が見られた。夏休み後は、旗のダンスの練習をしながら、当日、石灰で円をかけないので、先生が先頭になり前の人との間隔をあけないで円をつくる練習をしました。この時、円になったら両手を横にひらき、手をつなぐとききれいな円になることを話す。間隔があいたり、ふざける子もいましたので、その時デコボコの円ができることも経験した。まがったり、間隔があいたら少しずつ自分でおおしていく方向にもっていった。しかし目立って遅れる子どもは、先頭にしたり、声をかけたり次第に気がつくようにさせ、また、位置は、入場式・ゆうぎ・鈴わりとも同じ位置にして「あなたは○○ちゃんのうしろで○○ちゃんの前よ」と、最初からはつきりして、変えませんでした。これは、いつも同じ位置なので「ならびましょ

う」といった時、機敏に行動がとれてよかったと思う。ゆうぎの旗をつくったり、万国旗を飾ったりして当日をむかえたが、園児と共に先生も不安でした。が、入場行進を行ない、みどりの芝生の上で「旗のダンス」「鈴わり」を楽しみ、大きな失敗もなく、お姉さん方のダンスも興味をもってみ、さかんに応援もできた。大集団で最後まで参加し、行動したことは、子どもにとって大きな自信になったようです。

#### ☆二年保育年少組の場合

夏休みのおみやげとして、身体中、まっ黒になって登園した。運動会を迎える二学期が始まってすぐの日である。運動会の種々の準備の前に、運動会について子どもたちとの話し合いを持った。このクラスの人たちにとっては、はじめての経験であるが、運動会というものはすでにお家の人たちに聞いていたり、前に見ていて「運動会があるのよ」と話す、「ワッ」と歓声をあげる。「お兄ちゃんは体操しているよ」「ママが運動会するっていった」「まえね、かけっこしておみやげももらったの」「つなひきやるでしょ」「ぼくかけっこ速いよ」などと話してくれる。教師の用意した運動会のお話や絵本を見て、運動会に対する関心を強く持ったようだ。ちょうど小学校の校庭で、小学校のお兄さんお姉さんが体操をしたり、行進したり、

整列したりしていたので、「みんなもお兄さんたちといっしょに運動会をするから、よく見てね」と話し、見たりまねをした。小学校の先生が大声で、「前にならえ!」とおっしゃると、全員がサッと手を出すのがおもしろくて、早速まねをはじめた。それからはならばいつも、子どもたち同士で「前にならえ」というのがおきまりになった。前をまっすぐ見て、元気にザッザッとそろって行進するのとても気に入ったようすである。「前にならえ」というのはまっすぐに並ぶように手を上げるのだということや、歩く場合、よそ見をしないで、元気に歩くようにと見学しながらみんなに話した。しかしやってみると手だけは上げるが、ただ手さえ上げれば、まっすぐだと思われしく、教師に引っぱられたり、押されたりして、やっとうにか並んだらしくなるのがほとんどだった。一人一人はとんだりかけたり、相当運動もでき、一学期にはお遊戯会があった、みんなが集まって動けるよう、指導してきたつもりだったが、子どもたちのようすを見ると今さらながら、指導の足りなさを痛感する。

円になって歩くとうしてもふぎけて止まりたくなったり、他の方に見とれたりする人が、他のクラスでも同様に、先生に並び方を直されたり、注意されているのを見ると、四才児

の普通の段階かとホッとした。それでも毎日少しずつくり返すうちに、まっすぐになるうという気持ができてき、お友だちの曲っている人をなおしてあげたり元気に歩くと、身体がまっすぐになって早く大きくなれるんだと話し合っているようすも見られるようになった。

お遊戯の練習がはじまる。年長組と一緒に「旗のダンス」が選ばれた。子どもたちが短期間で無理なく楽しく覚えられるよう。教師が考え原型を変えた。曲を何度か聞きリズムにあわせて手を打ったり歩いたりして曲に馴れる。教師のやるのを見たり、まねをしながら、毎日くり返した。集団行動が多くなり、自分勝手に行動したり、集団に抵抗のある人も興味を持って参加できるようはげましたり、ほめたり、疲れぬように休んだりして子どもたちの負担にならぬように心を配った。他のクラスもいっしょに集まって見せてあげたり、見せてもらったりし、練習に張り合いを持たせた。お遊戯に使う旗を作り、実際に持っておどるととてもうれしそうだ。又運動会のお遊戯では一定の旗のふり方しかできないので、いろいろなふり方を考えて遊んだ。お友だちの考えたのをまねたり、教師の旗のふり方を見て、旗が上ったら立つ、下ったら坐るなどの簡単なゲームを楽しんだ。子どもたちは外で遊ぶのが大好きだ。運動会の話し合

いをしてから、かけっこをするグループができて、みんなも入れてもらって遊ぶようになった。「ヨイ、ドン」の音が小さいとたくさんで走る場合聞えなくて、バラバラにスタートし「ずるいずるい」といい合うことになるので、声にあわせて、ハンカチをふることを思いついた。目標を変えてかけっこしたり、走る人、見る人、合図をする人を変りあって、長く続けて遊んだ。お友だちの走り方を見て、目標めがけてまっすぐ、一生懸命走ると速いことを知った。応援する人もできて覚えた運動会の歌を歌って「ブレイブリー」と声援する。教師の指導で一つか二つの簡単なルールのあるかけっこもやった。

ころんでもすぐ起きて走り、みんなに「○○ちゃん、えらかたね」とほめられ、最後までやりぬくという気持も持ったようだ。運動会が近くなると子どもたちが、運動会を楽しみに待っているようすがうかがえる。「あといくつねたらしいの」「おばあちゃんも見にくるんだって」と話しくる。しかし、教師の方では、結果が心配になってしまい、声を大きくしてしまふのもこの頃だ。反省すべき点が多くなり、残念である。運動会に参加する態度、見る態度について話し合い、今までの練習が十分発揮されるようはげました。

### ◎運動会当日

会場が全く園と違った所なので不安を持たぬよう心をくばる。座席とグラウンドが大変はなれていたので時間に余裕をもって待機していたが、連絡や、ほかの所要時間がわからず待つ時間が長くなったことは、子どもたちにとって負担になり疲れさせたと思う。

年長組は小さいながらも余裕のある態度がみられたが、年少組は、場所なれない、集団行動になれない点がはっきりと見られた。並ぶことも、お手洗いへ行きたい時はいうことも、まいごにならないようにすることも、今まで何度も注意し聞かせてきたが、興奮して、話を聞いてくれず、一人一人顔をみながら声をかけてまわったり、少しの移動にもついてこられず、呼びかけたり、手を引かなければならなかった。だが、大集団のこのような場合であるため、あまり無理のないよう、しかし少しのがまんはできるよう力づけた。

競技や遊戯は年長組も年少組も、今まで以上に元気に楽しんでやれたように思う。

### ◎幼稚園だけの運動会（小運動会）

#### ☆年長組の場合

今回は、夏休みが終って期間が短いせいもあり、せっかくなかけっこが方々でもりあがってきたのをとり上げることができず、

また子どもの満足のいくような競技ができなかった。運動会が終ってから「もう一回運動会やりたい」と子どもたちにいわれた。そこで、子どもたちの発案の競技を中心に計画し、かけっこ・綱ひき・ボールわたし・リレーなどやり、競技のルール、人数のくらべっこ、走る距離、方向をきめ、力いっぱいやる楽しさを味わわせた。

#### ☆年少組の場合

お遊戯だけの運動会では、運動会のねらいも達成できず、また、子どもたちが楽しい運動会として過ごすには満ち足りないだろうと思われたので、年少組だけの小運動会を機会をみて行なおうと話し合い、計画の中に入れた。

### ◎運動会を終って（反省）

#### ☆年長組の場合

今回の運動会は稀な例だと思ふ。そして、その最大のころみとして、プログラムの最後に幼稚園から短大まで一緒に簡単なダンスをした。やる前は無理ではないかと思っていました。が、終ってから子どもたちは、一番楽しかったと話していたし、私たちも大集団で幼稚園が行動する場合、あくまでも幼稚園としての歩調で行なつたことがよかつたと思つています。終つてからの話し合いで「競争をやりたい」という子どもの意欲

で幾種類かの競技をやってみたが、子どもの気持も納得させ、私たちが運動会でできなかった指導ができました。現在でもやっているリレーごっこをみて、青竹一つの節が増えたように思われ、これからの一つ一つの経験が節になり、太くたくましい竹になってくれることを願っています。

#### ☆年少組の場合

子どもたちは運動会をとても喜んで迎え、できるかぎりがんばってくれた。が、子どもたちの「運動会をやるんだ」という気持が少なかつたように思う。特殊な運動会だったためもあるが、ぼくたち私たちの運動会をやるとういう気持が、意欲を持たせ、雰囲気をもりあげるのに役立つと思う。そのような留意に欠けていたと反省する。小運動会にはその点を考え、用意を手伝ってもらったり応援したりした。競技を多くし、みんなで力いっぱいする、からだ全体を動かすなどのよい機会となった。応援の旗を作ったり、かざったり、招待状を自分たちで作り、お家の方がたにあげるようにすればもっと楽しかったのではないか、また年長組ならかけっこやリレーなど競技のルールを自分たちで考えてやらせたいと思う。

子どもたちの成長の時期もあるが運動会がおわって、子どもたちの行動がしっかりしてきたように思う。運動会でのいろいろ

るな経験によって自信を持ち、集団行動に慣れたためもあるようだ。

運動会の後もお兄さん、お姉さんの競技を思い出して、運動会ごっこをやったり、レコードにあわせて、自由におどったりすることができるようになった。このような子どもたちの運動会をおわった後のようにすに比べ、教師の気持はどうだろう。心から充実した運動会を過ごせたと反省できるだろうか。残念ながら「やれやれ」という感じが強い。このような感想がでてくるのは、どこに原因があるのだろうか。幼稚園では運動会を毎年の大きな行事としている。運動会があるから、あれも覚えさせ、これもやらせなければと考える。このような考えが、運動会が近づくにつれて、声高くなり、もう一度と、子どもにも負担になりがちになるのではないかと反省する。行事のための保育ではなく、保育のための行事にしなければならない。それにはまず、何を目標とし、何を子どもたちに経験させるために運動会を行なうか、もう一度頭の中で整理し、毎日の保育にあたらなければならないと思った。今度の運動会は、何十年に一度という特殊なものだったが、この運動会を通じて子どもたち以上に、教師の得たものが多かったと思う。これらの経験をこれらの保育に生かせるよう努力したい。

(洗足学園幼稚園)